

## 南三陸町志津川地区における総合的なまちづくり支援

Integrated urban Restoration Support in Shizugawa, Minamisanriku-cho, Miyagi Prefecture

松本 悟\*

Satoru MATSUMOTO

場 所： 近藤卓デザイン事務所  
日 時： 2015年8月1日13時～16時  
聞き手・文責： 近藤 卓（編集委員）

—松本さんのご所属と南三陸町への異動の経緯を教えてください。

**松本**：私は、UR都市機構（以下UR）南三陸復興支援事務所に所属しております。2013年春から宮城県南三陸町志津川の復興支援を担当しています。URでは震災直後より被災地へ職員を派遣し、復旧・復興活動を支援していたため、被災地の復興に貢献したいと思い手をあげました。2013年4月から南三陸町のUR復興支援事務所に派遣され現在に至ります。URは2015年4月時点で宮城、岩手、福島震災復興支援に400人を超える職員を派遣しています。

—南三陸町は現在どのような状況ですか？

**松本**：南三陸町は、今回の震災により中心市街地を含む広いエリアに壊滅的な被害を受けており、死者・行方不明者は800人を超え、町役場等の公共施設を含む全体の6割超の建物が全半壊という甚大な被害状況でした。現在は災害廃棄物処理をすべて完了し公共インフラの本格復旧・復興を推進しているところです。住宅については災害公営住宅の計画戸数の約2割が、防災集団移転団地の計画宅地数の約3割が完成しましたが、本格的な復興はまだまだこれからといった状況です。

—松本さんの担当業務を教えてください。

**松本**：URは志津川市街地の復興に係る都市計画事業を南三陸町から包括的・総合的に委託されており、私は被災市街地復興土地区画整理事業1地区、防災集団移転促進事業1地区（3団地）、津波復興拠点整備事業2地区に携わっています。具体的には、住民説明会や個別面談を通して町民の皆様の生活再建の意向を確認し、個別地区の事業計画を作成するとともに、国や県との協議を行い必要な手続きを実施するなど、都市計画事業の推進に係る総合調整を行っています。

—こういった都市計画事業は町民の皆様の意

見を聞きながら町の職員とともに進めていくのですが、復興事業の様々な制約等から、時として町民のニーズから離れてしまうこともあります。そこで町民の皆さんの思いを肌で感じるために「かもめの虹色会議」という地域の集会にも参加させていただいています。行政の支援とともに、こういった町民の皆さんと腹を割って話す時間も大切にするべきだと感じています。

#### 地元の方々を中心として自由な議論ができる場の重要性

—「かもめの虹色会議」（以下、かもめ会議）とは、どのような会議なのでしょう。

**松本**：地域内外のあらゆる世代・立場の人が集まり、まちづくりについて学び・考え、志津川の将来について対等に議論する任意の会議です。地元の上山八幡宮禰宜の工藤真弓さんが代表をされていて、かもめのように高い目線で全体を考えて自由に議論し、町民の多様な色を活かしていきたいとの思いから「かもめの虹色会議」と名付けられているそうです。

—主な参加者は、志津川地区の町民、戸倉地区や歌津地区の町民、子育て世代の主婦、町会議員、町職員、観光協会職員、ネイチャーセンター準備室スタッフ、観光業従事者、転入者、支援団体スタッフ、外部専門家、研究者、世代は20～60代、男女比も様々のよう

—実は志津川の復興事業に関して町民の総意を行政へあげる正式団体として、志津川まちづくり協議会（以下、まち協）という組織があります。しかしまち協は地元有力者を中心に設立した団体ということもあり、若手や不慣れな方は入りづらい、もしくは議論しづらいという面もあるようで、ざっくばらんに楽しく議論する場を設けたと聞いています。また、まち協は志津川に住んでいた町民以外は参加できませんが、かもめ会議には志津川以外はもちろんのこと南三陸以外の方も参加できますし、出席も可能な時でも良く、間口が広いです。様々な人たちがアイデアを持ち寄って自由に議論した内容について、工藤さんを

はじめとしたまち協の会員でもある方々がまち協へ届けそれが行政へ届けられるという仕組みになっていますので、行政と地域の間に入った調整役や町民のコンサルタント的な役割を担っていると思います。

—松本さん自身も、自分の職場にかもめ会議の内容を持ち帰ったり、自分の職場で考えていることを持ち込んだりすることはありますか。

**松本**：直接的にそういったことを行うのは控えるようにしています。かもめ会議で議論している内容が役所で議論している内容に通じていてもっと伸ばせるとき、もしくは著しかけ離れようとしているときには、その背景や状況を私なりにお伝えし皆さんに考えていただく。そして自発的に調整を図りながら方向性を見出していただく。そんな機会を提供できるよう心がけています。

—私はURでの職種は造園職ですがこれまでも事業計画の策定等に携わってきたので、被災地でも全体を動かしていく計画調整業務を担う立場（プランナー）で常駐しています。事業全体のバランスを調整しながら、不具合や不安が生じればそこを補い、事業全体を滞りなく推進していくところを担っていますので、行政と地域の調整機能をもっているかもめ会議の役割と通ずるものがあり大変重要であると考えています。

#### ランドスケープアーキテクトが被災地で担う役割

—松本さんは造園職でありながら計画全体を見るプランナー的な役割を担っているということですが、その立場で見た造園分野の支援活動の印象はどのようなものですか。

**松本**：造園やランドスケープの職能を持つ技術者が行う復興支援として、仮設住宅や新しく完成した災害公営住宅の外構および公園等における住民参加型の花壇整備・植栽活動などがあります。こういった活動は大変意義が高く、被災者の心のケアや新たなコミュニティの醸成等に大きく貢献しており、造園等の職能を持つ技術者がその能力を最大限発揮でき

\*独立行政法人都市再生機構

